

OFC NEWSLETTER

Open Faculty Center

Graduate School of Economics, School of Economics, Osaka University

第26号 2026年4月発行

OFC講演会

第71回 日本経済の課題とチャンス 今こそゲーム理論を活用せよ！ …… P 2

第72回 いのちをめぐる共感と対話ーアダム・スミスの思想から「いのち宣言」へー …… P 3

LECTURE

「アセットマネジメントの理論と実務」2025/4～（毎週水曜日全15回） …… P 6 寄附講義

ECOCA (経済学部同窓会) 学生会

学生会活動への支援 …… P 7

OFC運営委員長より

4半世紀を超えた今年も、例年同様に多彩な催しを企画・運営することができました。これもひとえに OBOG をはじめ、皆さまのお力添えのおかげであり、心より御礼申し上げます。

本年は、50年ぶりとなる大阪での万博が盛況のうちに開催され、動く人工心臓をはじめとする大阪大学の研究成果が広く注目され、大学のプレゼンスが大いに高まった一年となりました。

万博開催に関連し、恒例の秋季 OFC 講演会では堂目卓生教授をゲストに迎え、万博を通じて生まれた「いのち会議」の思想と実践を、アダム・スミスの経済学的視点から捉え直し、共感の経済学と未来社会のデザインについて考える貴重な機会となりました。

また、大阪大学経済学部同窓会学生会 (ECOCA) と協力し、新入生歓迎会をはじめ、就職活動を控えた 2・3 回生を対象とした就職相談会、留学生歓迎会など、大学生活の節目におけるさまざまなイベントをサポートしてまいりました。

今後もより充実した OFC 活動を展開し、30 周年、そして 50 周年へと連綿と継続していけることを願っております。引き続き、皆さまのご理解を賜りますとともに、OFC 活動への温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

大阪大学大学院経済学研究科 教授 OFC運営委員長 開本 浩矢

第71回 講演会 要 旨

「日本経済の課題とチャンス 今こそゲーム理論を活用せよ！」



2025/5/28
於：中央大学駿河台キャンパス
大阪大学大学院経済学研究科教授
安田 洋祐 氏

ゲーム理論は、世の中の複雑な事象をゲームに置き換えて分析することで、さまざまな課題を解決しようという学問です。経済学や政治学、社会学、コンピュータサイエンスなど、多くの分野で応用されており、この理論を使って新しいマーケットをデザインするような研究を私も行っています。

具体的にゲーム理論がどう役立つのか、「新商品に適切な値段をつける」というケースで考えてみましょう。メーカーが新商品を発売するとき、消費者に「いくらまでなら買いますか」と質問したとします。消費者は、少しでも安く買いたいという思いから、自分が許容できる最大の価格より安めの値段を答えてしまいます。ならばもっと精密に適正価格を知る方法はないか、ということで開発された手法がBDMオークションです(BDMはこの手法を考案した3名の研究者の頭文字です)。

この手法では、メーカーがあらかじめ価格(y 円)を決め、それを伏せたままで被験者に自分が出したい金額(x 円)を決めて入札してもらいます。被験者のつけた値段がメーカーの価格よりも高ければ、 y 円で落札することができ、低ければ取引は行われません。落札できたとき、被験者は自分が選んだ価格 x 円ではなく、自分が直接変えることができない y 円を支払う、というのがミソです。

このルールの下では、自分の商品に対する最大

の許容額を正直に伝えることが被験者にとって一番得になることが知られています。メーカーはBDMオークションを使うことで、潜在的な消費者たちから新商品に対する価値を聞き出し、新商品の適正価格が導けるわけです。

私が共同創業者となっている株式会社エコノミクスデザインでは、この手法を市場全体の需要予測と組み合わせたサービスを、大手飲料メーカーなどに提供しています。

次に、時間の流れがあるゲームの勝ち方を導く方法について伝授しましょう。ここでは、二人のプレイヤーが1から順に数字を読み上げていき、25を言ったほうが負けになるという、数字の数え上げゲームを考えます。各プレイヤーは、最低でも1つ、最高で3つまでの数字を数えることができます。このとき、先行または後攻に必勝戦略はあるでしょうか。

ゲームを解くカギは、バックワード・インダクション、すなわちゲームを後ろから遡る(バックワードの)思考法です。自分が勝つ、つまり相手に25を言わせるためには、自分が24で終わればよいです。そして、自分が24を言うためには、ひとつ前のラウンドで20で終わればよいことが分かります。なぜかというと、相手が21から23までの数で終わっても、自分は必ず24を数えることができるからです。同様にして、自分が20を言うためには16を、16を言うためには12を、という形で4ずつ数字を遡っていくと、最初のラウンドで4で終わることができるプレイヤー、つまり後攻が勝つことが分かります。このゲームでは、仕組みさえ知っていれば、後手必勝だったのです。

以上は、ごく単純なゲームを使った必勝法の導き方でしたが、世の中の複雑な事象をゲームに置き換えてみると、戦略を立てたり状況が把握できたりすることが少なくありません。ざっくり言う

と、ゲーム理論はそのような分析を経済や政治といった現実社会に実装することで、課題を決しようという学問なのです。ちなみに私は、この数え上げゲームを、棋士の藤井聡太さんとプレイしたことがあります。藤井さんが「1、2」と読み上げ、私が「3、4」と返すと、一瞬の沈黙の後、彼は「負けました」とおっしゃいました。彼ほどのゲームの達人になると、必勝法はすぐに分かってしまうのですね。

最後に、ゲーム理論を応用したマッチングの問題を考えてみましょう。どの研修医をどの病院に割り当てるかという、研修医の配属問題を扱います。実際に日本や米国などで用いられている割当方法は、発案者であるゲイルとシャプレーの名前を取って「GS アルゴリズム」と呼ばれています。GS アルゴリズムでは、各研修医が希望順位の高

い病院から順番に応募していき、拒否されると次に高い順位の病院に応募します。各病院は、応募者の中から最も順位の高い研修医を暫定的に受け入れ、後からより魅力的な研修医が応募してきたら、そちらに乗り換えることができる、という仕組みです。

こうして導かれるマッチング結果は、効率性や安定性などの望ましい性質を必ず満たすことが知られており、GS アルゴリズムは 2012 年にノーベル経済学賞を受賞しました。この仕組みは、研修医配属だけでなく、組織における従業員の部署配属や、大学の学科・ゼミ選択など、幅広く応用が期待できます。現実をゲームに置き換えることで社会課題を解決していくゲーム理論。ますます進む理論の発展と現実への実践に、ぜひご注目ください！

GSアルゴリズムの結果

	ごろう	さくら	みちこ
1位	ペルソナ	ペルソナ	東帝大学
2位	浪速大学	東帝大学	ペルソナ
3位	東帝大学	浪速大学	浪速大学

研修医の病院に対する希望順位

	ペルソナ	浪速大学	東帝大学
1位	みちこ	みちこ	さくら
2位	ごろう	ごろう	みちこ
3位	さくら	さくら	ごろう

病院の研修医に対する希望順位

- ・新たに拒否される研修医がない ⇨ アルゴリズム終了
- ・結果が安定マッチングになっていることを確認しよう！

※講師の方の肩書きは講演時点のものです。

第72回 講演会 要旨

「いのちをめぐる共感と対話 —アダム・スミスの思想から「いのち宣言」へ—



2025/12/20 於：大阪大学中之島センター

いのち会議事業実行委員会委員長
大阪大学総長補佐・
社会ソリューションイニシアティブ長
堂目 卓生 氏

本講演で堂目先生は、自身の研究者としての歩みを振り返りつつ、アダム・スミスの経済思想を軸に、現代社会が直面する分断や排除の問題、そして「いのち」を中心に据えた新しい社会と経済のあり方を提示されました。

堂目先生はまず、自身が経済学史・経済思想史の研究者として歩んできた経験を語られました。

研究は常に苦しく、自分には才能がないのではないかと悩むこともあったが、真理を追求する営みそのものが「善にある世界」であったと思う。1996年に大阪大学に着任し、同窓会の場で「阪大経済は世界や日本を変える新しい経済哲学を生み出してほしい」という卒業生の言葉を聞いた経験は、その後の思索の原点となり、この問いに応えるため、2018年には社会ソリューションイニシアティブ (SSI) を立ち上げ、「いのち」を軸に社会課題へ向き合う実践を始めた。さらに2023年には「いのち会議」の設立に関わり、2025年10月には「いのち宣言」を発出するに至った。

アダム・スミスの思想について、以下のように解説されました。

スミスは『国富論』で「見えざる手」による市場

の働きを論じたが、それは利己心が無制限に肯定されることを意味しない。市場が社会の繁栄をもたらすためには、独占や権力との癒着、偽装が排除されたフェアな競争が必要である。その前提条件を支えるのが、『道徳感情論』で論じられた「共感(シンパシー)」である。人は他者の感情に関心を向け、それを心の中に写し取ろうとする性質を持つ。こうした相互の是認と否認の経験を通じて、人は心中に「公平な観察者」を形成し、やってよいことと悪いことを判断する基準を身につけていく。この共感に基づく道徳感情こそが、法や道徳の基礎にあり、社会秩序を支えている。社会秩序とは、他人の生命・身体・財産・尊厳が侵されない状態であり、人々が無防備で安心して生きられる条件である。秩序は空気のように当たり前と感じられるが、戦争や紛争、災害の現場では容易に崩れ、その重要性が浮き彫りになる。しかしスミスの構想には、解決されない課題が残された。

第一に、労働者が競争の外部に置かれたままでよいのかという問題である。教育や機会を通じて、誰もが競争に参加できる社会をどう実現するか。第二に、国籍や文化、宗教の違いを超えて、人間として共有される道徳や正義をいかに形成するかという問題である。国内では機能する道徳や法が、国家間では適用されず、戦争においては人を殺すことが正義とされてしまう。この分断を乗り越えるためには、特定の文化に染まらない「開かれた公平な観察者」が必要だ。

こうした問題意識を踏まえ、先生は近代社会の基本構造そのものを問い直されて、その再構築を提言されました。

近代社会では「有能な人」が中心に置かれ、生産に貢献できない人は「弱者」として周縁化され

てきた。包摂とは、弱者を有能な側に引き入れる一方向的なものと理解されがちである。しかし、社会課題の現場に身を置くと、助ける側と助けられる側が助け合っていることに気づく。助けを必要とする人々の生き方や言葉が、むしろ助ける側の生を支え、勇気づけている現実があるのだ。大事なのは「助けを必要とする『いのち』を社会の中心に置く」社会像である。「いのち」には人間だけでなく、動物、自然、地球そのものも含まれる。人は誰もが潜在的に助けを必要とする存在であり、災害や新型コロナウイルス感染症が示したように、助ける側と助けられる側は容易に入れ替わる。重要なのは、すでに存在している共助の営みに気づき、それを基盤に社会を再構築することである。この考え方は、SDGsの「誰一人取り残さない」という理念や、大阪・関西万博の「いのち輝く未来社会のデザイン」とも重なる。自由や私的所有を維持しながらも、投資・労働・消費といった経済行動を通じて「いのち」を支える共感経済の可能性を示唆している。

そして最後に、先生はご自身の実践としてのSSIやいのち会議の活動内容の説明をされました。また「いのち宣言」とアクションプランの内容と作成過程の説明をされて、万博での「いのち宣言フェスティバル」とそこでの「いのち宣言」の発出の様子を語られました。そして前アイルランド共和国大統領からの思いもかけないメッセージなど、海外からの反響についても紹介されました。

講演全体を通して、アダム・スミスの残した課題を現代に引き継ぎ、分断を超えて共感を広げることで、「いのち」を中心とした新しい社会と経済を全員の協働で構想しようという呼びかけがなされました。

※講師の方の肩書きは講演時点のものです。

※講演要旨は、OFC事務局の責任で編集したものです。

アセットマネジメントの理論と実務

開講期間：2025/4～2025/7

会場：豊中キャンパス 法経研究棟5階509セミナー室
オンライン（授業支援システムCLE内にてリアルタイム配信）

日本投資顧問業協会からのご寄附により、資産運用の機能や社会的役割、リスクの概念、資産運用における予測や投資の手法、市場や法制度などのしくみについて、実務経験豊富な専門家により講義が行われました。

第1回(4/16)

「投資資産(株式、債券)の リスクとリターン」



auアセットマネジメント(株)
CIO 最高運用責任者

東出 卓朗 氏

第2回(4/23)

「アセットアロケーションと分散投資」

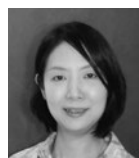


前ノーザン・トラスト・グローバル・インベストメンツ(株)
アドバイザー・ボード・メンバー

山田 正次 氏

第3回(4/30)

「投資信託」



(株)国際社会経済研究所
理事長 藤沢 久美 氏

第4回(5/14)

「PE(プライベート・エクイティ)投資」



ティーキャピタルパートナーズ(株)
取締役社長 マネージング・パートナー

佐々木 康二 氏

第5回(5/21)

「不動産の証券化と資産運用」



(株)三井住友トラスト基礎研所
投資調査部長
上席主任研究員

大谷 咲太 氏

第6回(5/28)

「責任投資 / ESG 投資」



三井住友トラスト・アセットマネジメント(株)
シニアファンドマネージャー

杉原 邦幸 氏

第7回(6/4)

「ファンドマネージャー・
アナリストの業務」



三井住友DSアセットマネジメント(株)
常務執行委員

木下 広一 氏

第8回(6/11)

「金融デリバティブ取引」



東京海上アセットマネジメント(株)
法人営業本部
シニア・ストラテジスト

河西 洋文 氏

第9回(6/18)

「日本の上場企業の評価」



国際基督教大学
理事長特別補佐・基金担当理事

新井 亮一 氏

第10回(6/25)

「ヘッジファンド」



あいざわアセットマネジメント(株)
代表取締役社長

白木 信一郎 氏

第11回(7/2)

「機関投資家と
コーポレート・ガバナンス」



(株)日本投資環境研究所
SRコンサルティング部
シニア・コンサルタント

加藤 栄治 氏

第12回(7/9)

「投資資産の種類と
グローバル・マーケットの動向」



アセットマネジメントOne(株)
運用本部
チーフエコノミスト

小出 晃三 氏

第13回(7/16)

「自主規制とコード」



日本投資顧問業協会
副会長

岡田 則之 氏

第14回(7/23)

「金融商品取引法と
アセットマネジメント」



アセットマネジメントOne(株)
リスク管理本部 副本部長

小野 高央 氏

第15回(7/30)

「アセットオーナープリンシプル
とその課題」



システム2(株)
年金ガバナンスアドバイザー

石田 英和 氏

※講師の方々の肩書きは講義時点のものです。

学生部会活動への支援

OFCでは経済学部同窓会学生部会(ECOCA)への後方支援が業務の一つとなっております。

今期 ECOCAでは、1月ゼミ懇談会、4月新入生対面交流会(写真1)、7月OBOG交流会(写真2)、9月運営メンバー研修会(写真3)、11月就職活動支援の柱である企業探求セミナー(写真4)を開催しました。また経済学部主催の留学生交歓パーティー(写真5)に運営協力という形で参加しました。ECOCAスタッフにとっても充実した1年になったと思います。

今後も学生部会の発展とスタッフ一人ひとりの成長を見守りながら支援をしていきたいと考えております。



新入生対面交流会



OBOG 交流会



運営メンバー研修会



企業探求セミナー



留学生交歓パーティー



2025年は関西では何と言っても万博でした。開催前にはいろいろとネガティブなことが言われていましたが、実際に行ってみると楽しくて終盤にむけて大いに盛り上がったことは周知のとおりです(私も通期パスを購入してリピートしました)。

何事も人の言うことを鵜呑みせず、自分で経験してみることの大切さを再認識させてくれました。また何をするにもスマホが必要な(逆に言うとスマホがあれば何でもできる)世界になっていることも実感させてくれたイベントでもありました。

2025年の講演では堂目卓生先生にお願いして、アダムスミスが道徳感情論の中で強調した人間社会の基盤としての「共感」が、今の世界でとても大事になっており、それはSSIやいのち会議の活動を通じて今回の万博にも活かされたことを語っていただきました。参加された方々は皆さん感銘されていました(堂目先生ありがとうございました)。

OFC(及びECOCA)の通常業務は例年どおり無事行えました。OFCの設立目的である経済学部と外の社会の結節点としての業務で言いますと、先にあげたようなオープンな形での講演会を開催しました。またECOCAが実業界と直接接することが出来るキャリア活動へのサポートなどを実施しました。これまでのご支援ご協力に感謝いたしますと伴に今後もよろしくお願いいたします。

大阪大学大学院経済学研究科・経済学部オープン・ファカルティ・センター
高戸 順一郎

大阪大学大学院経済学研究科・経済学部 Open Faculty Center (OFC)

OFC運営委員：

経済学研究科 教授 開本 浩矢 (運営委員長)
経済学研究科 教授 許 衛東
経済学研究科 准教授 加藤 隼人

OFC事務局：〒560-0043

大阪府豊中市待兼山町1-7 文・法・経済学部本館1階143
電話：06-6850-5259 FAX：06-6850-5268
E-mail：ofc@econ.osaka-u.ac.jp
<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/ofc/>